～日本人の死因第一位の「がん」～

　私たちが最も身近な病気のひとつの「がん」。

がんは日本人の死因第一位の病気です。がんは、お年寄りだけの病気ではなく若い世代

の方もがんにかかる方も多くいらっしゃいます。

今や日本人の２人に１人は一生のうちにがんにかかると言われています。

そんな私たちにとって聞きなじみのある病気ですが、がんとは一体何なのでしょうか。

■がんとは

　がんのことを「悪性腫瘍」と呼ぶこともあります。

　正常な細胞は、体や周囲の状態に応じて、増えたり、増えることをやめたりします。

　しかし、何らかの原因でできた異常な細胞が、体の中に細胞のかたまりを作ることがあり

　ます。これが「腫瘍」です。

　「悪性腫瘍」とは、このような腫瘍のうち、無秩序に増殖しながら周囲に広がり、体

　あちこちに飛び火して新しいかたまりを作ったりすることをいいます。それらのことを

　転移したと言います。

　一方で、上記のように広がったり転移したりせず、ゆっくりと増える腫瘍を良性腫瘍と言います。良性腫瘍は、もとになる細胞の種類や大きさ、できた場所によっては症状がでることがありますが、多くの場合は手術で完全に取りきることができれば再発することはありません。

■上皮内がんとは

　上皮内がんとは、上皮内細胞と乾漆細胞を隔てる膜を破って広がっていない腫瘍(がん)をいいます。広がっていないために通常はがんに含みませんが、保険によってはがんと同等の保障を受けることができます。

■血液がんとは

　白血球などの、血管や骨髄、リンパ節の中にある細胞が、かたまりを作らずに増える。

　そして白血病や悪性リンパ腫、骨髄腫などになります。

　また、悪性リンパ腫ではかたまりができ、リンパ節などが腫れることがあります。

■最後に…

　がんは、早期発見や適切な治療を行えば治る病です。

　保険などで、もしもに備えてがんやその他の病気にしっかりと備えましょう！